

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
アップルスポーツカレッジ	平成5年12月6日	学校長 高山 俊彦	〒950-0932 新潟市中央区長潟2-2-8 (電話) 025-286-5191			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 国際総合学園	昭和32年 10月 10日	理事長 池田 弘	〒951-8065 新潟市中央区東堀一番町494番地3 (電話) 025-210-8565			
目 的	現在、精神的豊かさを取り戻すことが求められる我が国の現状を踏まえ、国境や文化・年令を超えてスポーツを楽しむことが推奨されている。こうした国際化・多様化していく生涯スポーツ及び健康の育成におけるスペシャリストの果たす役割はますます大きくなっている。また今後の日本スポーツ界発展の為に、国際化する社会をグローバルに見つめ時代の変化に柔軟に対応できる能力をもつスポーツスペシャリストの育成と、その基盤となる地域スポーツ振興が今まで以上に望まれていることは明らかである。これらから本校は、スポーツ、教育、文化活動を通して、日本スポーツ界の発展並びに、地域、国家社会の発展に寄与することを目的とする。具体的な活動として、スポーツ選手から一般の人までを対象者に合わせたトレーニングやコンディショニング指導等の対象管理やコンディショニングに関する専門知識や技術を修得し、将来社会貢献のできるトレーナーを育成することを目標とし、その基盤を築く。また、トレーナーとして現場から求められる人間性豊かで行動力、指導力のある人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
文化・ 教養	文化・教養 専門課程	スポーツトレーナー科	2年 昼	3068単位時間 (又は単位)	平成12年 文部科学省告示 第15号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1364単位時間	976単位時間	単位時間	600単位時間	128単位時間
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
40人		63人		5人	0人	5人
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前期：4月1日～9月30日 ■ 後期：10月1日～3月31日 			成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表(有) ■成績評価の基準・方法について A～Eの評価でEは単位不認定 	
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め：4月9日 ■夏 季：7月31日～8月31日 ■冬 季：12月26日～1月7日 ■学 年 末：2月20日 			卒業・進級条件	進級基準・卒業基準は、年間54単位以上の修得	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制(有) ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談・保護者との連携等 			課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 ■サークル活動(有) 	

就職等の状況	■主な就職先、業界等 ■就職率^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 92.2% ■その他（任意） （平成25年度卒業者にに関する平成26年3月時点の情報）	主な資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> ・日本体育協会アスレティックトレーナー ・NSCA-CPT ・健康運動実践指導者 ・AFFA-PC ・日本SAQ協会認定インストラクター
中途退学の現状	■中途退学者 8名 ■中退率 2.2% 平成25年4月1日在学者 364名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 356名（平成26年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 目的意識の低下、学修意欲の低下、経済的理由等 ■中退防止のための取組 個別面談の実施、各種アンケートの実施及び分析等		
ホームページ	URL: http://www.applesports.jp/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年10月8日現在

名 前	所 属
村山 哲二	ベースボール・チャレンジリーグ
池田 拓史	(株)新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ
早川 貴章	(株)新潟バスケットボール
高山 俊彦	アップルススポーツカレッジ 学校長
石井 和昭	アップルススポーツカレッジ 副校長
本間 圭一	アップルススポーツカレッジ 教務部長
西海 幸頼	アップルススポーツカレッジ 健康スポーツ科科长
佐野 英朗	アップルススポーツカレッジ トレーナー科科长
鹿間 宏海	アップルススポーツカレッジ プロスポーツビジネス・スポーツビジネス科科长

(開催日時)

第1回 平成26年10月1日 18:00～19:00

第2回 平成26年10月8日 18:00～19:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業・業界団体等の意見をもとに専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を目指し、現場に必要とされる即戦力の人材を育成する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
日赤救急法・蘇生法	スポーツ現場における怪我・病気を想定し、様々な応急処置から心臓マッサージ及びAEDの手法を体得し、現場実習に出た際の実践に向けて演習を行う。	日本赤十字社 新潟県支部

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

企業・業界団体の基礎知識・技術はもちろんの事、最新の業界動向・市場を企業側と学校担当者は密に連携をして、情報収集及び最新の知識・技術を体得していく。学校担当者は業界側と同じ着眼点やレベルで学生指導ができるように努める。また学校側として職員レベルに合わせて計画的に研修を遂行し、人材育成に努める。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年10月8日現在

名 前	所 属
内藤 真理子	(株新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ)
植野 翼	(株新潟アルビレックスランニングクラブ)
蟻浪 亮	(株新潟プロバスケットボール)
高山 俊彦	アップルスポーツカレッジ 学校長
石井 和昭	アップルスポーツカレッジ 副校長
本間 圭一	アップルスポーツカレッジ 教務部長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.applesports.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.applesports.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロトラーナー学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			H R I	自己能力や自己啓発を促すための授業	1 年 通 年	60		○		
○			P C I	WOED3級を取得するための対策授業	1 年 通 年	60			○	
○			コミュニ ケーション 検 定 対 策	コミュニケーション能力検定初級を取得す るための対策授業	1 年 前 期	30		○		
○			就職実務学	就職活動に向けた対策授業	2 年 後 期	30		○		
○			H R II	自己能力や自己啓発を促すための授業	2 年 通 年	60		○		
○			P C II	EXCEL3級を取得するための対策授業	2 年 通 年	60			○	
○			トレーニン グ 科学	メディカルチェックの基礎知識。生活、健 康調査法、体力測定機器に関する基礎知識 論、体力評価法等	1 前	20		○		
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロトラーナード科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			競技者育成システム論	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、チームマネジメント、競技スポーツとIT	1前	10		○		
○			コーチングⅠ	スポーツ指導の基礎、スポーツ指導の原則、指導形態、スポーツ指導の実際評価の方法とその活用等	1前	10		○		
○			スポーツ心理学	運動技能の心理的特性、運動と効果、運動と知覚、運動意欲、運動場面と情動、運動指導の心理学等	1後	20		○		
○			スポーツ医学Ⅰ	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、救急処置等	1後	10		○		
○			スポーツ医学Ⅱ	アスリートの健康管理、内科的疾患と対策、外傷、障害と対策、アスレティックリハビリテーションと計画等	1後	20		○		
○			スポーツ社会学Ⅰ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1後	4		○		
○			スポーツ社会学Ⅱ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1後	5		○		
○			スポーツ経営学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	1後	10		○		
○			スポーツ栄養学Ⅰ	エネルギー源としての栄養素、食物の必要性と食習慣、水分補給とスポーツドリンク、練習プログラと食生活等	2後	3		○		
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロトレーナー学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			スポーツ栄養学Ⅱ	エネルギー源としての栄養素、食物の必要性と食習慣、水分補給とスポーツドリンク、練習プログラと食生活等	2後	5		○		
○			発達発達論Ⅰ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	2前	6		○		
○			トレーニング論	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得と獲得課程	2前	4		○		
○			運動生理学	運動器のしくみと働き、呼吸循環器系の動きとエネルギー供給、スポーツバイオメカニクスの基礎等	2後	10		○		
○			スポーツ行政学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	2後	4		○		
○			発達発達論Ⅱ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	2後	10		○		
○			コーチングⅡ	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任、スポーツと人種、プレーヤーと指導者の望ましい関係等	2前	13		○		
○			スポーツ科学Ⅰ	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。運動生理学・心理学・トレーニング理論・バイオメカニクス。	1年 通年	60		○		
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロトレーナー学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			機能解剖学	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。身体の機能解剖学	1 年 通 年	60	4	○		
○			スポーツ外傷・障害	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。スポーツでの外傷・障害の概要	1 年 通 年	60	4	○		
○			コンディショニング論	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。コンディショニングに関する概要	1 年 通 年	60	4	○		
○			アスレティックリハビリテーションI	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。トレーナーの役割・アスレティックリハビリテーションの概要	1 年 通 年	90	6	○		
○			救急処置	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。救急処置の方法論	1 年 後 期	30	2	○		
○			スポーツと栄養	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。スポーツ現場での栄養	1 年 前 期	30	2	○		
○			測定と評価	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。スポーツ現場での測定方法とその評価	1 年 通 年	60	4	○		
○			テーピング	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。テーピングの演習	1 年 通 年	60	4		○	
○			コンディショニング演習I	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。ストレッチの演習	1 年 通 年	60	4		○	
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロトレーナー学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			フィールド トレーニング	SAQ協会認定インストラクター養成授業	1 年 通 年	60			○	
○			ストレング ストレーニング	NSCA-CPT養成授業	1 年 前 期	30			○	
○			アスレティ ックリハビ リトレーニングI	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。リハビリテーションの 実際	1 年 後 期	30			○	
○			パーソナル フィットネ ストレーナ ー理論I	AFFA-PC養成対策授業	1 年 後 期	30		○		
○			現場対策	2年次よりの現場実習開始の為の授業	1 年 後 期	30		○		
	○		アスレティ ックトレー ナー総合理 論A-I	日本体育協会アスレティックトレーナー資 格取得のための対策授業	2 年 通 年	120		○		
	○		スタジオプ ログラムI	スポーツクラブでスタジオで行われるスク ールプログラムの体験・指導	2 年 通 年 ・ 3 年 通 年	120			○	
	○		ストレング ストレーニ ングII	パーソナルトレーニングを行えるようにな るための演習。	2 年 通 年	60			○	
	○		アスレティ ックトレー ナー総合理 論B-I	日本体育協会アスレティックトレーナー資 格取得のための対策授業	2 年 通 年	60		○		
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロトレーナー学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
	○		ストレッチ &リラクゼーション	ストレッチとスポーツマッサージの演習	2 年 通 年	60			○	
○			スポーツ科 学Ⅱ	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。運動生理学・心理学・トレーニング理論・バイオメカニクス。	2 年 通 年	60		○		
○			健康管理と スポーツ医学	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。内科的疾患の概要	2 年 後 期	30		○		
	○		アスレティックリハビリテーションⅡ	日本体育協会アスレティックトレーナー養成認定の為の授業。アスレティックリハビリテーションのプログラミング	2 年 通 年	60		○		
	○		スイミングⅠ	スポーツクラブでのスイミングインストラクター養成のための演習	2 年 通 年	60			○	
○			トレーニング理論	NSCA-CPT養成授業	2 年 通 年	60		○		
○			健康運動実践指導者筆記対策	健康運動実践指導者資格取得の為の筆記対策	2 年 通 年	60		○		
○			健康運動実践指導者実技対策	健康運動実践指導者資格取得の為の実技対策	2 年 通 年	60			○	
	○		A T 対策 A-I	日本体育協会アスレティックトレーナー取得の為の筆記対策授業	2 年 前 期	30		○		
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科) 平成〇〇年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
	○		健康運動実 技演習	内科的疾患への運動指導の演習	2 年 前 期	30			○	
	○		A T 対策 A - II	日本体育協会アスレティックトレーナー取 得の為の筆記対策授業	2 年 後 期	30		○		
	○		ストレッチ	パートナーストレッチの演習	2 年 後 期	30			○	
		○	A T 対策 B - II	日本体育協会アスレティックトレーナー取 得の為の実技対策授業	2 年 後 期	30			○	
	○		S & C トレ ーニング	NSCA-CPT養成授業	2 年 通 年	60			○	
	○		コンディシ ョニング演 習II	スポーツ現場でのウォーミングアップ・ク ールダウン等コンディショニング方法の演 習	2 年 通 年	60			○	
		○	エアロビク スI	スポーツクラブでのエアロビクスインスト ラクター養成のための演習	2 年 通 年・ 3 年 通 年	120			○	
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科) 平成〇〇年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			現場実習	スポーツ関連企業・医療関係・学校関係に実習を行う事でトレーナーの実際を体験実力の向上を図る	1・2年通年	600			○	
○			STEP UP CAMPI・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1・2年前期	48			○	
○			SKILL UP CAMPI・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1・2・3年後期	48			○	
○			STEP研 修I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	全通年	32			○	
○			日赤救急 法・蘇生法	日本赤十字社公認の救急法救急員資格を取得するために、救急時の看護の基本的知識とその技術について学ぶ	1前	16		○		
合計					66 科目	3068 時間 (単位)				